

令和3年度 消費・安全対策交付金事後評価の概要(ソフト・一般型)

目的	目標	事業内容	目標値	実績	達成度	評価	事業実施主体	交付金相当額(円)	評価の概要	第三者の意見の概要	
農畜水産物の安全性の向上	農薬の適正使用等の総合的な推進	・農薬の安全使用の推進 ・農薬の適切な管理及び販売の推進	農薬の不適切な販売及び使用の発生割合	2.5%	5.2%	97%	A	岐阜県	509,313	<p>農薬の使用及び販売において、令和3年度は販売者の調査数が減少したこともあって、不適切な管理・販売の発生率は、目標の2.5%に対し、実績は5.2%となり、達成率は97%となった。</p> <p>県内農産物では、残留農薬基準の超過事例の発生はなかった。引き続き、法令遵守等の啓発活動や指導が必要であるものの、前年に比べて不適切件数は減少しており、各種研修や検査等を行うことにより、農薬販売者及び農薬使用者の農薬適正使用の意識は高まり、食品の安全上のリスク低減は図られたと考える。</p>	<p>農薬の不適切な使用は、食の安全安心に対する重大な脅威となる。令和3年度の農薬の不適切な使用事例は5.2%であり、農薬の適正使用に関する啓蒙と普及が必要であることが裏付けられた。農薬の適性使用の推進に関する講習や立ち入り調査の実施は、食の安全安心を確保する上で効果を発揮したと考えら、引き続きこの啓蒙と調査が必要である。</p>

令和3年度 消費・安全対策交付金事後評価の概要(ソフト・一般型)

目的	目標	事業内容	目標値	実績	達成度	評価	事業実施主体	交付金相当額(円)	評価の概要	第三者の意見の概要	
伝染性疾病・病害虫の発生防止・まん延防止	家畜衛生の推進	・監視体制の整備・強化 ・家畜の伝染性疾病の発生予防 ・家畜の伝染性疾病のまん延防止 ・畜産物の安全性の向上 ・家畜衛生対策の推進に係る関連機器の整備	家畜衛生に係る取組の充実度	102	76	74%	B	岐阜県	8,250,746	令和3年度の新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の行動制限期間が累計144日間と長期に及んだことは、計画時に予測することは困難だった。当該期間中は新型コロナウイルス感染拡大防止を優先し、県として、県内事業者も含め出勤者の7割削減を目指す等、人と人の接触機会を減少させる取組を実施した結果、農場立入の機会が減少し、検査数は目標件数に至らなかった。また、伝染性疾病が強く疑われる事例を優先して検査したことにより、有症状事例の検査の比率が増加したこと、及び新たな検査機器の整備や既存の検査機器の定期的な校正を行い、確実な検査を実施したことにより、家畜の伝染性疾病の検出率が上がった結果、目標値の達成に至らなかった。 そのような状況の中で、家畜疾病予防啓発クリアファイルを作成し農家へ配付する等、各種事業を通し、生産段階における飼養衛生管理の向上並びに家畜衛生対策の向上を図った。その結果、豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染病の発生を防ぎ、食の安全と消費者の信頼を確保し、畜産業の安定した経営に貢献することができた。	昨年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から正常な事業の遂行が困難な中、検査機器の整備、動物用医薬品販売店舗の指導、耐性菌調査、防疫演習の開催等、幅広く事業が実施されていることから、当該事業は適切に実施されたと判断できる。今後は、家畜の伝染性疾病の発生防止のため、より積極的、継続的な事業の実施を期待する。
	養殖衛生管理体制の整備	・総合推進会議の開催等 ・養殖衛生管理指導 ・養殖場の調査・監視 ・疾病の発生予防・まん延防止	養殖衛生管理指導を実施した経営体数の養殖等経営体総数に占める割合	100%	100%	100%	A	岐阜県	641,000	当初の計画とおりに事業を実施することができ、目標値の達成度は100%と良好な結果を得ることができた。	当初の計画に対し、100%の実施率であることは評価できる。疾病防疫に対しては、今後十分に準備をして、事業にあたっていただきたい。

令和3年度 消費・安全対策交付金事後評価の概要(ソフト・一般型)

目的	目標	事業内容	目標値	実績	達成度	評価	事業実施主体	交付金相当額(円)	評価の概要	第三者の意見の概要	
伝染性疾病・病害虫の発生防止・まん延防止	病害虫の防除の推進	・薬剤抵抗性病害虫・雑草の発生状況調査等の手法の確立	薬剤抵抗性病害虫・雑草や従来からの防除対策では十分な効果が得られない病害虫・雑草等の防除体系等における作業の現状値からの向上率	131%	131%	100%	A	岐阜県	732,900	病害虫の防除の推進に関する本事業は適正に実施され、目標を達成した。	・タマネギを食害するアザミウマに対し、殺虫剤の見直しを行い、新しい防除暦が作成できた。 ・ナスの果実腐敗病原菌に対処できる薬剤を探索し、新たに2剤が有効であることが見出された。 ・キュウリのコナジラミに対する化学的・物理的防除策を検討し、その成果を講習や広報などにより普及した。 ・基幹的マイナー作物を食害する害虫に有効な殺虫剤を見出し、農薬メーカーに農薬登録の働きかけをした。 上記のように、岐阜県内での農薬使用の課題について、有用な成果を上げたことがわかった。
	重要病害虫の特別防除等	・重要病害虫侵入警戒調査等の実施	対象病害虫の調査の総回数	77回	77回	100%	A	岐阜県	109,000	当初計画における調査回数、調査地点数を達成することができた。 トラップ調査、目視調査により、本県へのミカンコミバエ種群等の重要病害虫の侵入は確認されなかった。	重要な侵入警戒害虫や病害に関して、岐阜県内各所で適切にトラップ調査が行われた。その結果、これら病害虫の侵入が認められないことがわかった。また既に県内に侵入が認められるPPVについても、拡大は確認されなかった。本事業は正しく実施されており、引き続きこれら病害虫の侵入を警戒するために、本事業が継続されることが望ましい。
総計・総合達成度					78%	A		10,242,959			

令和3年度 消費・安全対策交付金事後評価の概要(ソフト・特別交付型)

目的	目標	事業内容	目標値	実績	達成度	評価	事業実施主体	交付金相当額(円)	評価の概要	第三者の意見の概要	
伝染性疾病・病害虫の発生防止・まん延防止	家畜衛生の推進	・家畜の伝染性疾病のまん延防止	豚熱のまん延防止及びアフリカ豚熱の発生抑制	—	豚熱のまん延防止及びアフリカ豚熱の発生抑制を図ることができた	達成	適正	岐阜県	11,204,000	令和2年度に引き続き、令和3年度においても、検体数確保のため、調査捕獲に加えて、有害捕獲並びに狩猟により捕獲した野生いのししから検体を採取し、豚熱及びアフリカ豚熱の浸潤状況調査を実施した。さらには捕獲者への積極的な働きかけにより、浸潤状況調査に必要な検体数を増やすことが出来た。 これらの取組によって、これまで以上に県内各地域の正確な豚熱浸潤状況を把握するとともに、アフリカ豚熱の監視体制を強化することに繋がっている。 こうした浸潤状況調査の取組強化の結果、豚熱においては、令和元年9月以降小康状態を保っており、アフリカ豚熱の発生も確認されておらず、豚熱のまん延防止及びアフリカ豚熱の発生抑制を図ることが出来た。	野生いのししの豚熱検査において、捕獲者への積極的な働きかけにより、有害捕獲における検体の回収を昨年度の約2倍にする等、検体数を増やしたことは、正確な豚熱浸潤状況を把握するとともに、アフリカ豚熱の監視体制強化に繋がっており、県の取組は評価できる。 豚熱においては令和元年9月の発生以降小康状態を保っており、アフリカ豚熱の発生も確認されておらず、豚熱のまん延防止及びアフリカ豚熱の発生抑制が出来ていることから、県の評価は妥当である。
総計・総合達成度					達成	適正		11,204,000			

令和3年度(令和2年度補正予算本省繰越分) 消費・安全対策交付金事後評価の概要(ソフト・特別交付型)

目的	目標	事業内容	目標値	実績	達成度	評価	事業実施主体	交付金相当額(円)	評価の概要	第三者の意見の概要	
伝染性疾病・病害虫の発生防止・まん延防止	病害虫の防除の推進	温暖化等の影響で発生密度が増加している病害虫の管理手法の確立	スクミリンゴガイのまん延防止	—	スクミリンゴガイのまん延防止	達成	適正	岐阜県	448,166	<p>県内6地点で実施した実証によって、農薬散布、石灰窒素の施用、冬季起耕によるスクミリンゴガイの発生密度低減あるいは食害防止効果が確認された。</p> <p>本事業を通じて、スクミリンゴガイに効果のある防除方法が農業者、関係機関に共有され、地域が一体となってスクミリンゴガイのまん延防止に取り組む気運が高まった。</p>	地球温暖化の影響で、岐阜県内ではスクミリンゴガイの被害地域が拡大している。これに対処するため、被害抑制策を検討した結果、幾つかの有効な防除方法が提示できた。一部農業者には、スクミリンゴガイに対するリスク認識が低い場合があるが、今後この防除技術の普及と啓蒙を図ることで、被害の抑制と拡大防止に効果を発揮することが期待できる
総計・総合達成度					達成	適正		448,166			